

日本海に遊ぶ

京都大学水産実験所職員
上野 正博

タコとイカ

のですが。

さて、タコの足は8

本、イカの足は10本と

足の数こそ違いますが、

タコとイカはごく近い

親戚。足の付け根には

違いますよね。イカに

は胴体の背骨代わりに

なる大きな軟骨(甲)

があるのにタコにはあ

りません。正確には小

さな軟骨があるのです

タコの吸盤は強靱な

筋肉でできた文字通り

の吸盤。多少の凸凹に

は委細かまわず筋肉の

力で内側の圧力を減ら

して強烈に吸い付きま

す。イカの吸盤は見た

目には余り変わらないの

ですが、ワイングラス

のような形の筋肉に、

エビやカニの甲羅を作

っているのと同じキチ

ンという物質でできた

リングがはまっていま

す。イカの料理をする

ときに足を包丁の背で

しこくのはこのリング

をとるためです。

実はイカの吸盤は吸

い付く力は余り無くて、

どちらかといえば滑り

止め。ゴムのイボがた

くさん付いた軍手があ

りますが、イカの吸盤

はあのイボのようなも

のです。タコが海底を

這って暮らすのに対し

てイカは大海原を泳い

で一生を終えます。海

底をはい回るにはタコ

特大の甲を持つコウイカ

大好物のカニを捕まえるのにも吸盤が便利そうですね。これに対してイカはイワシなどの魚が主食。逃げようとすると小魚をしつかり捕まえるには、イボつき軍手のような滑り止めが大事だったんでしょ

5月の声を聞いて今年もタコとりの季節がやってきました。日が暮れてから実験所の海岸を鉤のついた竹竿を片手に懐中電灯で探り歩くと、大きなタコが水際近くまでやってきているのです。コウイカやアオリイカも産卵のために岸近くに寄るので、運が良ければこちらが獲(と)れることもあります。もっとも、年によって当たりはずれが大きくて、一晩に何匹も獲れる年もあるれば、幾夜通つても全く獲れない年もある



カラストンビと呼ばれる鋭い嘴(くちばし)を持つ口、その後ろには軟骨でできた頭蓋骨を挟むように鋭い目が構造です。

が、小さすぎてよほど注意しないと分かりません。でも、もつと違うのは足に並ぶ吸盤の構造です。